

2013 年福岡県海外子弟招聘事業に参加して

引率者：宋戸英司

期間：2013 年 7 月 4 日出発、7 月 16 日帰国 現地 11 泊 12 日

福岡県の海外県人会助成事業の一つとして 2008 年から今年で 6 回目となる当該事業に田中翔馬くんの引率者として参加させていただきました。

出発準備の段階から奨学金部長の田島様、宗会長には大変お世話になり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回は 7 ヶ国 13 県人会から今年 11 歳になる子供達 22 名（男子 11 名、女子 11 名）と 11 名の引率者（女性 10 名、男性 1 名）が福岡県から招待頂き、子供達にとっても、また引率の大人にとっても大変有意義な 12 日間を過ごさせていただきました。福岡県国際交流センターの皆さん、県庁国際交流局の皆さんには毎日早朝から深夜までお世話頂き、事故も無く無事にプログラムを終了することが出来ました。スタッフの皆様のご厚情に心より深く感謝申し上げます。

それでは、日程に応じてどのような活動スケジュールであったか、写真や感想を交えてレポートさせていただきます。

第一日目 7 月 4 日（木）、5 日（金）

11：45AM LAX 発 UA802 便にて成田へ出発。

翔馬君にとっては初めてご両親と離れての旅となる為か、少し緊張気味の様子でしたが機内では食欲もあり早速ゲームに夢中になっていました。途中数時間睡眠を取り、定刻より少し早く 14：40PM に成田空港に到着。

入国の際に翔馬君の日本のパスポートを聞かれ、成人になるまでは日本への入国の際には日本のパスポートで入国手続きをした方が早いので、US パスポートと日本のパスポート両方を持参するよう親切な係官からのアドバイスがありました。＜来年度からの注意事項その 1＞

入国審査と税関を通り、福岡への乗り継ぎ便まで 1 時間半ほどあったので、さっそく二人で「うどんスタンド」に行き肉うどんをお腹に「やはり日本のうどんは出汁が違う！」と二人で顔を見合わせて納得。まずは日本到着を実感する腹拵えを終えて福岡行き全日空機へ搭乗。

定刻の 19：00PM に福岡空港に到着、ロビーには県費留学生で滞在中の金川龍介君はじめ国際交流センターのスタッフの皆さんにお出迎えいただきました。丁度サンフランシスコ、メキシコ、ペルー、コロンビア等からの参加者も到着、他の到着便を待ってバスで宿泊先の宗像市にある総合スポーツ施設グローバル・アリーナへ移動。チェックイン後軽い軽食を取って就寝。午後 11 時過ぎにブラジルからの一行 11 名が遅く到着、結局 1 時過ぎに皆が寝静まりました。私は男子 11 人と同じ部屋割り、女性引率者と女子は 2 階に、留学生は別の部屋割りに、初日から 11 人の男の子を一人で面倒を見ることに。興奮して既に大暴れする子供達を叱りつけるなかに皆のベッドメイキングを手伝うなどと予想もしなかった大変な日々が始まることになりました。男子の部屋割りにはもっと考慮が必要と感じる。＜注意事項その 2＞

第二日目 7月6日(土)

時差の為に朝4時に目が覚めたが、外は激しい雨に見舞われていました。8時15分に集合して皆で朝食に食堂へ向かう。グローバルアリーナは体育クラブの合宿や企業研修などに使用されている総合運動公園で施設も良く整備されており、宗像市の吉武地区の山あいにある自然環境豊かな施設。食堂も広く、buffet形式の朝食は和食・洋食どちらも頂くことが出来るので、子供達にも大人にも満足できる内容でした。

午前9時から引率者と留学生のオリエンテーションが行われスケジュールの確認と注意事項の説明があった。その後子供達も入っての説明があり、国毎に6つのグループに分けられ我々はサンフランシスコからの4名と留学生の龍介くんを入れて Group E 7名、今後はグループ毎に行動することになる。

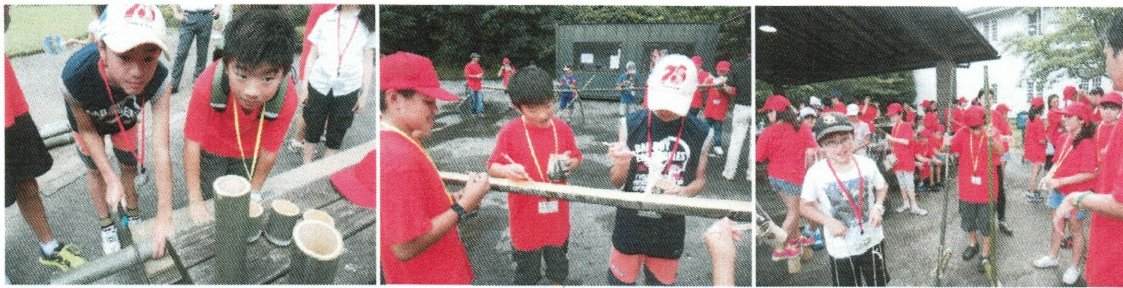


午後からは9日に訪問する那珂小学校での各国のプレゼンテーション資料をグループ毎に子供達が協力して作成。翔馬君は事前にいろいろな写真や説明文を準備して来ていた為、短時間で良いものが出来た、来年度からもこの事前の資料集めは必須とを感じる。＜注意事項その3＞

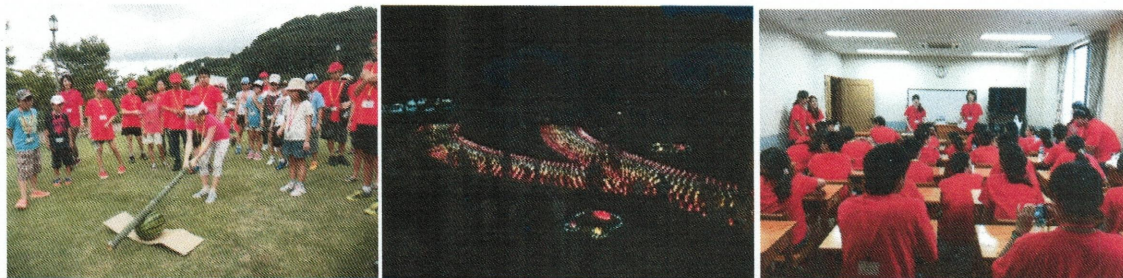
子供達はすっかり打ち解けて、男子の大騒ぎはピークに達してきた、午後10時消灯にも関わらず、2段ベットの上を飛び回り、枕投げも始まり戦場のような状況に業を煮やし日本語と英語で叱りつけるも、ポルトガル語、スペイン語しか通じない子供達には声の口調で怒られていることは判っても、しっかり伝わらないようす。悪ふざけも度を越していつ怪我をしてもおかしくない状況になったので、大声を上げてやめさせる。寝静まったかに見えた12時前、騒ぎ声に目をさますと、寝ているおとなしい子の寝巻きに歯磨きクリームを塗りつけているのを発見、いたずらした子を廊下に出して説教すると共に、汚した寝巻きや布団を洗わせる、ブラジルからの男子留学生にポルトガル語で注意させるが、留学生自身も罪の意識を認識しておらず、更にこの留学生をこんこんと説教することになった。結局2時過ぎに就寝。渡航の疲れもあり、ほぼ限界を覚える。＜注意事項その4＞

第三日目 7月7日(日)

午前11時から宗像小学校から6年生の児童25名が参加して交流会が行われた。昼食に地元の吉武ボランティア会のご夫人方がおにぎり作りの準備とそうめん流しを竹を切り出して準備いただきました。竹細工作りの指導もあり、子供達は昔懐かしい紙鉄砲や竹トンボ作りに夢中、手をご飯だらけにしてのおにぎり作りや竹のといと流れる冷たいそうめんを掬って食べるそうめん流しを楽しみ、日本の小学生達ともいつの間にかうち解けて遊んでいました。



昼食後、芝生広場でスイカ割りとゲームが行われましたが途中何度となく雷雨があり、蒸し揚げるような暑さの中、スタッフの皆さんのご努力に頭が下がりました。夕方4時から七夕祭りが行われ芝生広場に虹色のキャンドルアーチが作られており、子供達がろうそくに火を灯し、夕暮れと共に幻想的なキャンドルの虹が浮かび上がり、初めての七夕を楽しんだようです。



夕食後の引率者会議で男子部屋の窮状を報告、いつ怪我人が出てもおかしくない状態であること、男性引率者ひとりで11人の元気な男の子の面倒をみるのは不可能であることを説明、言葉の問題もあるので、特に寝や身の回りの整理、洗濯などは、女性であっても各県人会の引率者が男子の部屋へ入って責任を持って行うべきと説明。この点は最初のオリエンテーションの段階で各国引率者に明確に指導する必要があると感じた。このような貴重なプログラムも一端怪我人などが出ると今後の継続も難しくなることも説明、男子11名の内6名を男子留学生の部屋へ移し、2部屋に分けることになった。県費留学生達もこのプログラムのお世話が彼らの年間行事の中で重要な部分となっており、プログラムの本来の目的と子供達の安全を第一に考える事の重要性など、もう少し自分達の立場と主旨を理解してもらいたいと感じた。いっしょになって遊ぶだけが、子供達の面倒をみることではないと、私からも苦言を言わせてもらった。

第四日目 7月8日（月）

午前中はグローバル・アリーナから程近いトヨタ自動車九州工場を見学、最新鋭のロボットによる、輸出用レクサスを中心にした組み立て工程をガイドさんについて見学。どうしても人力が必要な内装部分では、工員の作業効率を最大限に生かすリニア稼働の作業椅子などの工夫が各所に行われており、さすが世界のトヨタと関心した。子供達も展示ロビーの新車の運転席で得意げにハンドルを握っているのが印象的でした。



午後は九州自動車道を一路大宰府へ、天満宮境内のあやめ池傍の茶店で昼食、翔馬くんも私と同じちゃんぽんを注文、よほどおいしかったのかスープまで飲み干して完食！その後グループに分かれて、大宰府天満宮を参拝し、門前の土産物屋をひやかした後、大宰府会館で有名な梅ヶ枝餅つくりを体験、子供も大人も初めての体験でわいわいがやがや楽しくお餅を型に入れて焼き、自作の梅が枝餅をおいしく頂きました。当日は気温も38℃近くまで上がり、夕方には皆バテ気味でしたが、男の子だけはエネルギーが有り余っている様子、バスの中でも懲りずにはしゃぎ回っていました。その後福岡市内へ移動し国際交流センターの新宮理事長殿主催の歓迎会に出席、県国際交流局並びに家族会の皆様の歓迎を受け和やかな会食をさせて頂きました。



第5日目 7月9日（火）

今日は今回のプログラムのメインイベントでもある、那珂小学校の皆さんとの交流会です。午前10時半に到着、図書室で一日のスケジュールとグループ毎の訪問クラスの説明が有り、体育館での3,4年生によるお迎への式からスタート、全員による体育館いっぱいの花笠音頭の踊りの披露を受け、続いて5,6年生、宇都宮校長先生からの歓迎の挨拶があり、海外子弟を代表してボリビアの八田賢一くんが日本語の挨拶を頑張りました。我々は舞台の上に準備された椅子に座り一人ずつ自己紹介を行う為、子供達は大変緊張していたようすです。11時半からはグループ毎に1年生のクラスでの交流があり、いっしょに七夕飾りを作りました。お昼は海外子弟達は初めての給食を経験、みんなで給食室へ食事を取りに行き、教室で配膳や牛乳配りを手伝いました。今日のメニューは韓国風ビビンバと春雨サラダ、牛乳、冷凍パイナップル。私も小学校卒業以来の給食に懐かしい思いでいっぱいになりながら、1年生の小さな椅子に座って頂きました。給食が終わると、昼休みです。全校生徒は校庭に出て、ドッジボールや縄跳びをやっており、海外子弟達もドッジボールの仲間入りし、休み時間が終わった頃は肩を組んで歩くまで仲良くなっていました。午後は6年生のクラスへ移動して教室の掃除を手伝いましたが、海外では教室の掃除などする事のない子供達ですから少々勝手が違うようでした。

その後5年生が迎えに来てクラスで書道を行いました。海外子弟のために一人ずつ名前を漢字に直した清書を台紙に張ってプレゼントしてくれました。翔馬君も6年生に囲まれて少し照れながら上手に「平和」という字を書き上げました。書道後は海外子弟による自国の紹介です。6日に準備した大きな模造紙で作ったプレゼンテーション資料を見せながら、上手に説明ができました。翔馬君が準備してきた8段重ねの大きなハンバーガーには6年生達も一番興味を持ったようでした。



その後、体育館へ集合し6年生達と長縄跳びに挑戦、体育館のあちこちで子供達の歓声が上り熱気が充満30分近いゲームでしたが海外子弟達も大満足の様子でした。最後にお別れの会があり、記念品交換会に続き6年生代表からの挨拶、ペルーからの佐々木なるみちゃんの答礼の挨拶と続き、最後に私が訪問団を代表してお礼の挨拶をさせて頂きました。那珂小学校の皆さんは今年で3回目の海外子弟訪問を受け入れとのこと、全校生徒での心の籠った準備とおもてなしに皆感激の日でした。子供達同士も連絡先を交換しあったりと今後の交流を誓って学校を後にしました。

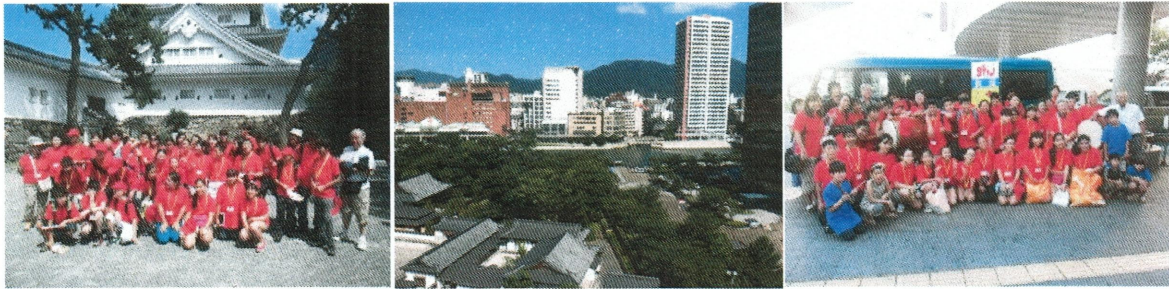
小学校の敷地内にある那珂公民館へ移り、茶道の体験やフラダンスの見学があり、最後に地元の竹下太鼓の皆さんの子供太鼓の披露を見学、海外子弟も入って和太鼓演奏の体験で盛り上がりました。長い一日でしたが、日本の小学生との交流は海外子弟にとって掛け替えのない経験になった事でしょう。

第六日目 7月10日(水)

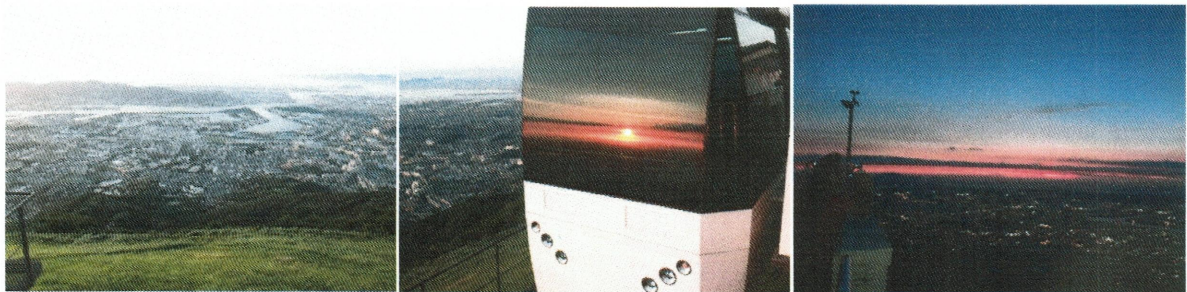
今日は朝から皆さん緊張気味です、それもそのはず県庁を訪問して小川知事や松尾県議会議長にお会いする日です。小川知事には忙しいスケジュールの中、知事室横の会議室で訪問団と面談頂き、これからも福岡県との絆をしっかりとつないで欲しいとのお話があり、記念品の交換を行い記念撮影をおこないました。県議会議事堂を見学したあと、松尾議長を訪問、歓談の後に同じく記念品の交換を行い記念撮影、子供達も引率者も緊張した面持ちでしたが公式行事を終えて議事堂地下のレストランでの昼食時には、元気な歓声を上げていました。



午後からは私の生まれ故郷北九州の視察に向かいました。午後2時過ぎに小倉城へ到着、大里先生他3名の家族会の方のお迎えを頂き、天守閣を見学、最上階からの小倉の景色と涼しい風に皆さん暫しうっとり、男の子達は自販機のアイスと記念コインの機械に夢中で景色などそっちのけのようす。お城の横にあるリバーウォークモールへ移動して1時間弱の自由時間があり、買い物に走りまわっていたようです。その後銀天街の湖月堂3階のレストランで早めの夕食を終え皿倉山へ移動とのことでしたが、せっかく小倉祇園祭りの最中に小倉を訪問しながら祇園太鼓を見ないで返る手はないと思い、保存振興会の友人樽井氏へ電話し急遽子供太鼓の披露を依頼、急な要請にも関わらず小倉駅前で古船場町内をはじめ地元3町内会の子供達による太鼓演奏を準備いただき、15分程度でしたが本物の小倉祇園太鼓を見てもらう事が出来ました。この様子は樽井さんのFacebookにもアップされています。



小倉を後にバスで八幡東区の皿倉山へ、山頂までのケーブルカーを特別に時間を延長してもらい夜景を楽しむことに、ここでも北九州家族会の皆さんのお迎えを頂き一緒に山頂へ。50年ぶりの皿倉山山頂からはお天気にも恵まれ270度のすばらしい景色でした、昔に比べ製鉄所の煙や光がなくなり、衰退した北九州工業地帯を眼下にすることになり一抹の寂しさを感じたのは、地元の私だけだったのではないのでしょうか。日没後段々と町の明かりが灯りすばらしい夜景を見ることができました。眼下の黒崎界限から黒崎祇園祭りの太鼓の音が聞こえ夏真っ盛りの北九州の絶景を味わせて頂きました。



第七日目 7月11日（木）

日本へ来て早いもので1週間が経ち皆もそろそろ疲れが出てきた様子で、男子もやっと早めに寝付くようになりました。今日は筑後地方の訪問、お茶どころで有名な八女市の伝統工芸館を訪問。八女は初めてでしたが、仏壇や盆提灯が昔から有名と聞き、大川の家具といいこの筑豊地方は江戸時代から細工物が伝統工芸として今も引き継がれていることを知りました。工芸館

の和紙作りの工房で内輪作りを体験、思い思いに乾燥させた草花をちらして紙をすき内輪を作り良いお土産ができました。売店ではさすがにお茶どころ、お抹茶たっぷりのソフトクリームは絶品でした。お土産に美味しいお茶を袋いっぱい買って、久留米に向かいました。福岡科学博物館では久留米家族会の方が出迎えられ、それぞれの地域で家族会の方々がボランティアでお世話いただき大変有り難く思いました。科学館ではプラネタリウムで宇宙少年のアニメを見て、初めて天の川の位置や七夕の彦星と織姫を知ることができました。



第八日目 7月12日(金)

今日は昼間の日程を終えるとホームステイ先への移動となる為、グローバル・アリーナは一端チェックアウトすることになります。散乱した部屋を片付け、ベッドのシーツを外して、大掃除です。荷物もホームステイ先へ持参するものとグローバル・アリーナへ預けるものに仕分けする必要があり、朝から大忙しでした。午前9時過ぎにバス2台に分乗して出発し一路福岡市内へ櫛田神社近くの博多町屋故郷館を訪問、博多祇園山笠祭りの歴史やビデオを見学、博多織りの実演は大変興味深く、江戸時代から帯状の硬紙にさん孔で織りパターンを作り、それを織り機に掛けて常に同じ織り柄を作る技法を完成させていたと知り、当時としては革新的な技術を考案した商人の町博多の歴史とエネルギーを感じ取ることが出来ました。その商人の町の博多の夏祭り「博多祇園山笠」がまさに真っ最中で今日は「追い山慣らし」の日、15日の早朝に櫛田神社入りする「追い山」の予行演習で本番とほぼ同じルートを7台の山笠が走り抜けるのを見学、子供達もいっしょになって沿道から勢い水をぶちまけ、祭り気分も最高調でした。5時過ぎに国際交流センターのある、天神のアクロスビルへ移動。ホームステイ先のご家族がすでに皆を待ち構えておられ、随時対面をしてそれぞれの家庭へ帰って行きました。翔馬くんのお婆ちゃんやおばちゃん家族も迎えにこられており、ご挨拶をして私も母が待つ小倉の実家へ移動しました。



第九日、10日目 7月13日、14日

子供達がホームステイ中は引率者も自由行動となり、小倉の実家へ短い帰省をすることに。

第11日目 7月15日（月）

お昼までに天神のアクロスへ集合、それぞれにホームステイ先のご家族と別れを惜しみながら中華バイキングで昼食のお別れ会が行われました。皆さんお土産をたくさん頂いたようで、来たときよりも大きな荷物を持って最後の夜となるグローバル・アリーナへのバスに乗り込みました。アクロス前にはたくさんのホームステイファミリーに見送られ一路宗像へ。

到着後、最後の総括引率者会議が行われ12日間の日程での感想や気づいた事などをそれぞれ発表し、来年度に参考になるような意見交換を行った。アンケートを記入して最後のミーティングを終わりました。最後の夕食はグローバル・アリーナ内の別棟のレストランでアメリカンスタイルの食事を準備いただき、国際交流センターの皆さんのお心使いに感謝しました。



第12日目 7月16日（火）

いよいよ帰国の朝、ブラジル組は成田行きのフライトが早く午前4時に起床し5時前に出発。子供達のバゲージの積み込みを手伝い、一人ひとりと握手やハグをして別れを惜しまました。毎晩悩ませてくれた元気爆発の男の子達も、今では懐かしく12日間同じ釜の飯を食べた家族のような存在になったとしみじみ感じました。

我々は遅めの朝食を取って午前10時半に出発、一路福岡空港へ空港には国際交流センターの皆さん、ホームステイ先のご家族らたくさんのお見送りを頂き、それぞれの成田行きのフライトに分かれて搭乗ゲートへ、最後まで日本の皆さんやプログラムに参加したメンバーで名残を惜しみながら福岡を後にしました。

翔馬くんもおばあちゃんやいとこ達が見送りに来られており、長らくの別れを惜しまました。帰りの機内では疲れもピークに来たのかゲームもそこそこに良く寝入っていました。

LAX 空港には定刻に到着、翔馬君のご家族、宗会長、田島さんのお迎えを頂き、今回のプログラムを無事終了することが出来ました。



子供達のみならず引率者にとっても大変貴重な経験となる、この海外子弟招聘事業を今後もぜひ継続いただきたいと思いますと同時に、各県人会に置いてプログラム終了後にこのような経験をさせて頂いた参加者をいかに繋ぎ止め、また組織化して県人会育成のツールとしていくか、フォローアップの大切さを実感しました。県費留学制度もしかりですが、決して一過性のプログラム参加ではなく、同じ経験をした県人会子弟が集まって将来の県人会活動をリードできるような同窓会的な組織作りを県人会としてもバックアップすることが、福岡県が与えて頂いているこの貴重なプログラムをより有意義なものとするのではと感じました。 長々と取りとめのないレポートとなりましたが、最後までご完読頂き有難うございました。

2013年度海外子弟招聘事業

引率者 : 宋戸英司 筆

2013年7月26日